

2011 年 12 月 4 日（日）

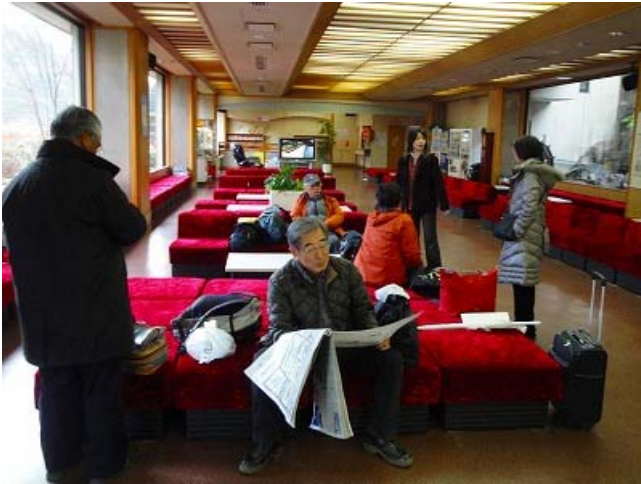
塩原忘年会

Reported by 高橋（文）

昨日は後半から天気が回復してきたが、今朝は雨が降っており風も強く吹いていた。

早朝から熊本さんが本日の散策コースの下見に出かけていた。

みなさん朝風呂に入り、7時からバイキングで朝食を済ませ2日目スタートした。



8:15に全員ロビーに集合。

雄さんが今回の会計を行なった。

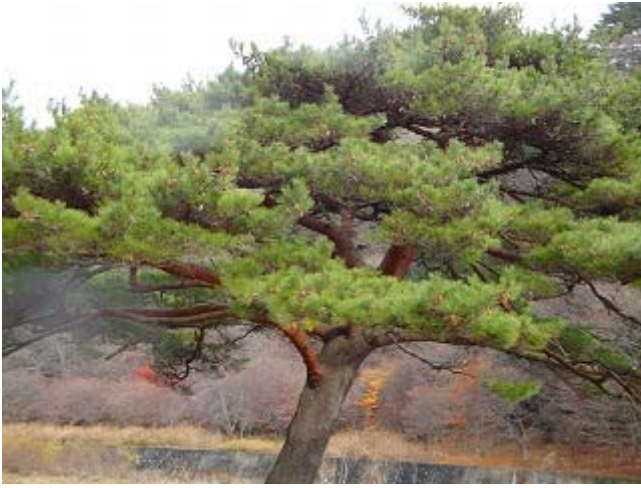
バス代、食事代、カラオケ代、飲み代含め一人7,100円と超格安。



天気は小雨になっていたが、塩原溪谷歩道の散策に出かけた。



箒川に沿った遊歩道にはムラサキシキブが咲いていた。



大きな松の木が川べりに葉を広げ



重たそうに大きな「松ぼっくり」が、今にも落ちそうに  
沢山ついていた。



このあたり昔は海底だったとのことで、木の葉や  
昆虫、魚の化石が出てくると解説してある。



名残のアジサイが咲いている。





古町温泉のはずれにある鍾乳洞の源三窟が見えてきた。  
人生の教訓の看板がある坂道を登っていく。



珪化木（けいかぼく）は、植物の化石の一形態で、  
木化石とも呼ばれる。



源三窟は、天然に出来た鍾乳洞の古洞窟である。洞内の  
温度は年平均15～16度で、夏は涼しく、冬は暖か  
です。鍾乳洞の中にできるタケノコの形をした石筍や石柱  
などの存在とあわせ、塩原における地質学や考古学研究  
の貴重な場となっている。



今から約800年昔の治承4年に、源三位頼政は、戦い  
に敗れ、宇治の平等院で自刃した。その後、嫡孫である  
伊豆冠者、源有綱も鎌倉の戦いに敗れ、敗戦の身をこの  
洞窟に隠した。再び立ち上がる機会を待っていたが、洞  
内に流れる滝水で米をといだとき汁が流れ出したため  
に、哀れな最期を遂げたと伝えられている。





鍾乳洞は50mの長さで続く



塩野さんが飲んでいるのは、長生きするという水。  
ただし、2杯飲むと効果はなくなるとか、ならないとか。



再び箒川の遊歩道に出て、来た道を500m戻る。  
キク科の花らしいが名前は？。



真っ赤なもみじの木が何本かある。

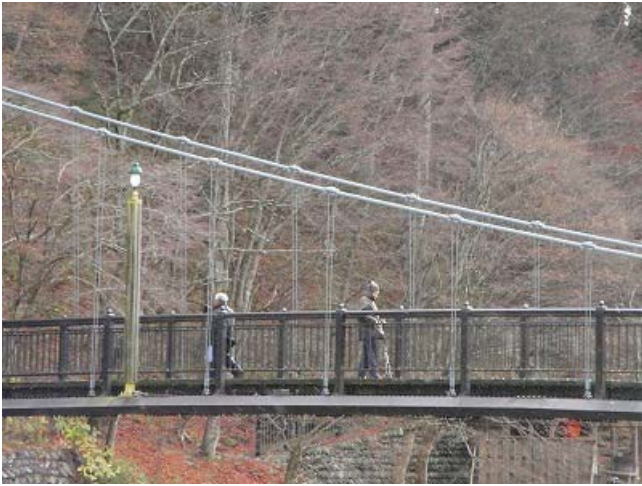




?



?



紅の吊り橋。

吊橋に見える左は伊能さん、右は山田さん



紅葉の時期は過ぎているがなかなかきれいだ。

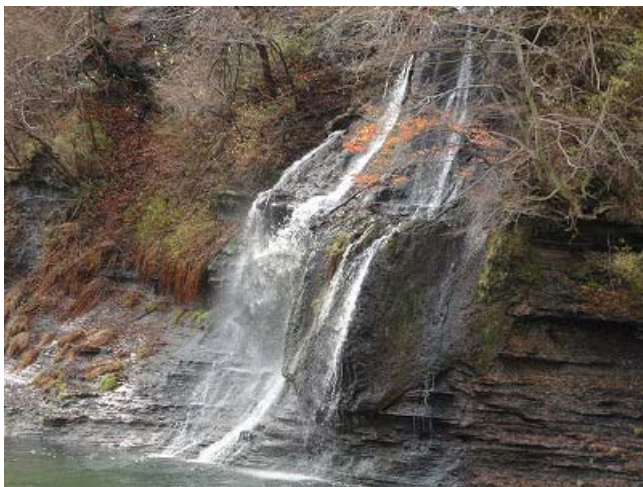




大きなもみじの木の下には東屋があり、  
その下の河原に露天風呂がある。  
その名も「もみじの湯」。  
料金箱には「百円」と書いてあった。



さらに溪谷歩道をたどっていくと



滝があったり…



温泉街の中心地にある「妙雲寺」には、ここを訪れたという夏目漱石などの文学碑が多数立ち並ぶ。  
5月中旬～下旬の大輪の花が咲き競う「ぼたんまつり」は特に有名。





「塩原温泉湯っ歩の里」は、敷地内から湧出する豊富な温泉による様々な癒しを体験できる施設で、全長 60m の日本最大級の足湯では、豊かな自然を眺めながらゆっくり足湯浴を楽しめる。さらに、足湯を歩くことで足つぼを刺激し足湯浴の効果をアップさせることができる。



しばし休んでいると、岡部さんと根岸さんが、持参したビールをみなさんに振舞ってくれた。  
湯上りならぬ、足湯浴ビールを楽しんだ。



11 時から塩原の先からやってくるバスがホテルに到着し始める。まずは埼玉市方面行きのバスが到着し、岡部夫妻が乗り込んだ。



ついで雄さんが…



そして横浜方面の3人（鵜飼さんは既に車中）が…



松戸方面の山田さんと伊能さんも…



しかし、いつも思うのだが、帰る時になると天気が良くなるのはなぜだろう。



バスは快調に東北道を走る。遠く長野県の浅間山もよく見える。





左から男体山、中央は奥白根山、右は女峰山の日光連山がハッキリ見えた。  
宇都宮を過ぎると左手に筑波山が見え、右手前方に富士山が見えてきた。

横浜組は渋滞にも会わず、横浜駅に 15 : 20 に到着しました。

途中、高速道路から「スカイツリー」が間近にとってもでっかく見えました。

若干運動不足だったような気もしますが、格安でこれだけ楽しめ、大満足の 2 日間でした。